

キャリアアップ研修 2 【 乳幼児保育 】

日時:2026年4月18日(土)9:30-12:30

会場:八尾コミュニティーセンター

講師:井桁 容子 氏

乳幼児教育実践研究家 保育sowラボ代表 非営利団体コドモノミカタ代表理事

内容:これからの乳幼児保育・教育の意義と保育者の役割

保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領改訂のポイント(子ども家庭庁の保育専門委員会の議論内容をAIがまとめたものを参考)にした7項目のうち0~2歳児の位置付けの強化について、0歳からの教育・保育・用語と教育の一体性の深化について学んだ。養護(生命の保持・情緒の安定)教育(発達の援助)すなわち養護の質=教育の質※乳幼児期には不可分なもので、保育者は、お世話する人、教える人ではない→関係の質を作る専門職

・どの世界でも、物事をうまくやるには”相手を知る”必要がある。子供は本気で知りたがっている。・園全体で、乳児を人として尊重する心があれば、おのずと保育の質は高まる。・乳児の感覚と保育者の適切な関わり・環境・音環境は心の育ちに影響・保育・教育に関わる大人の大切なこと。・保育者のポジショニングが学びや育ちに影響する。・感じることから注意深さが育つとコミュニケーション力が育つ。乳幼児に大切なことは、自分の体、心の状態のありのままを温かく受け止められて、経験を投資で感じ分かっていくこと。→経験があると「言葉に意味が宿る」経験が少ないと「ことば空っぽ」学び意欲・関わる意欲が育つには、「安心」が大事。非認知能力(心)が育つために重要なこと安心→信頼(つながり)アタッチメント※「愛情」「スキンシップ」とは視点が違う・過干渉・過保護になっていないか。信頼でつながると1歳でも理性が働く。保護者と子どもをつなぐ。・経験年数が多いことの落とし穴。・子どもの生きる意欲が育つにはごきげんな大人のそばにいること、などについて学んだ。

研修後に参加者が前後の人と話し合いをし、感想述べた後再度講師に「ゆとりをもって心掛けておられることは何か」を問うと、「ご機嫌な大人(人の評価をきにしない)子どもにとってどうかを考えられる人、専門家であること。」研修の中でも話しておられた講師のこれまでの保育実践(42年)・保育者養成・アドバイザーの経験から確信すること

1. 子どもが本来持っている能力を知らずに関わりを持っている大人(保育者・教師)が多い
2. 安心・安全と感じる時に、その人の持っている力が良く発揮できる
3. 人と人との繋がりが重要

上記を意識しゆとりをもち保育に向き合うことの大切さをあらためて学ぶことができた。

